

市民アンケート結果報告

(配布期間 2017 年 4 月 ~5 月末)

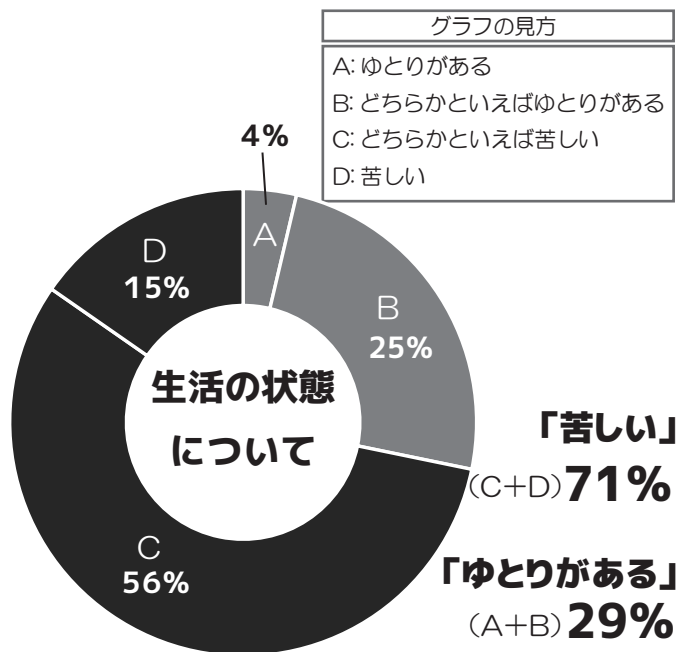
日本共産党 藤岡市委員会

市委員長 中澤秀平

藤岡市藤岡235-8 0274-22-8619(FAX 共通)

生活の状態は「苦しい」という実感が多数

Q. 生活の状態について



アンケートの結果はそうした実感を反映したものと
なっているといえます。

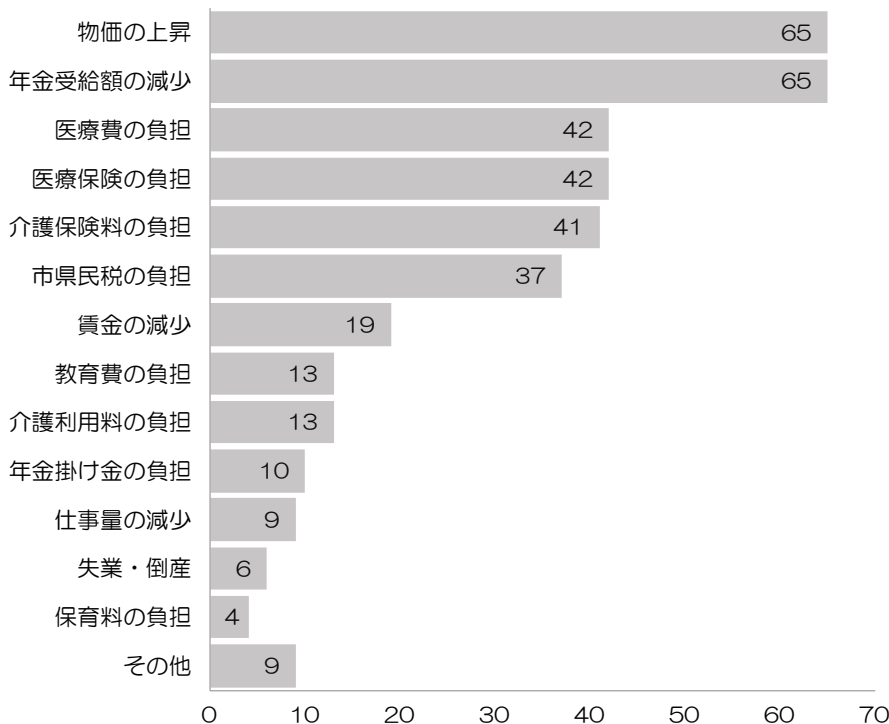
生活の状態に関する設問には71%の方が「苦しい」「どちらかといえば苦しい」と答え、暮らしの厳しさがうかがえます。アベノミクスによって景気が上向きといわれていますが、大企業の内部留保が400兆円を超える一方で、中小企業の休廃業は過去最多(2016年)、雇
用者報酬は9年以降下落傾向が続き、全世帯の3分の2は貯蓄額が平均以下、個人消費は21カ月連続減少(5月家計調査)と、庶民の暮らしには恩恵がありません。

日本共産党藤岡市委員会では実施してきました、市民アンケートへのご協力ありがとうございました。集計結果をお知らせします。

Q. 「どちらかといえば苦しい」「苦しい」と回答した理由について (※複数回答可)

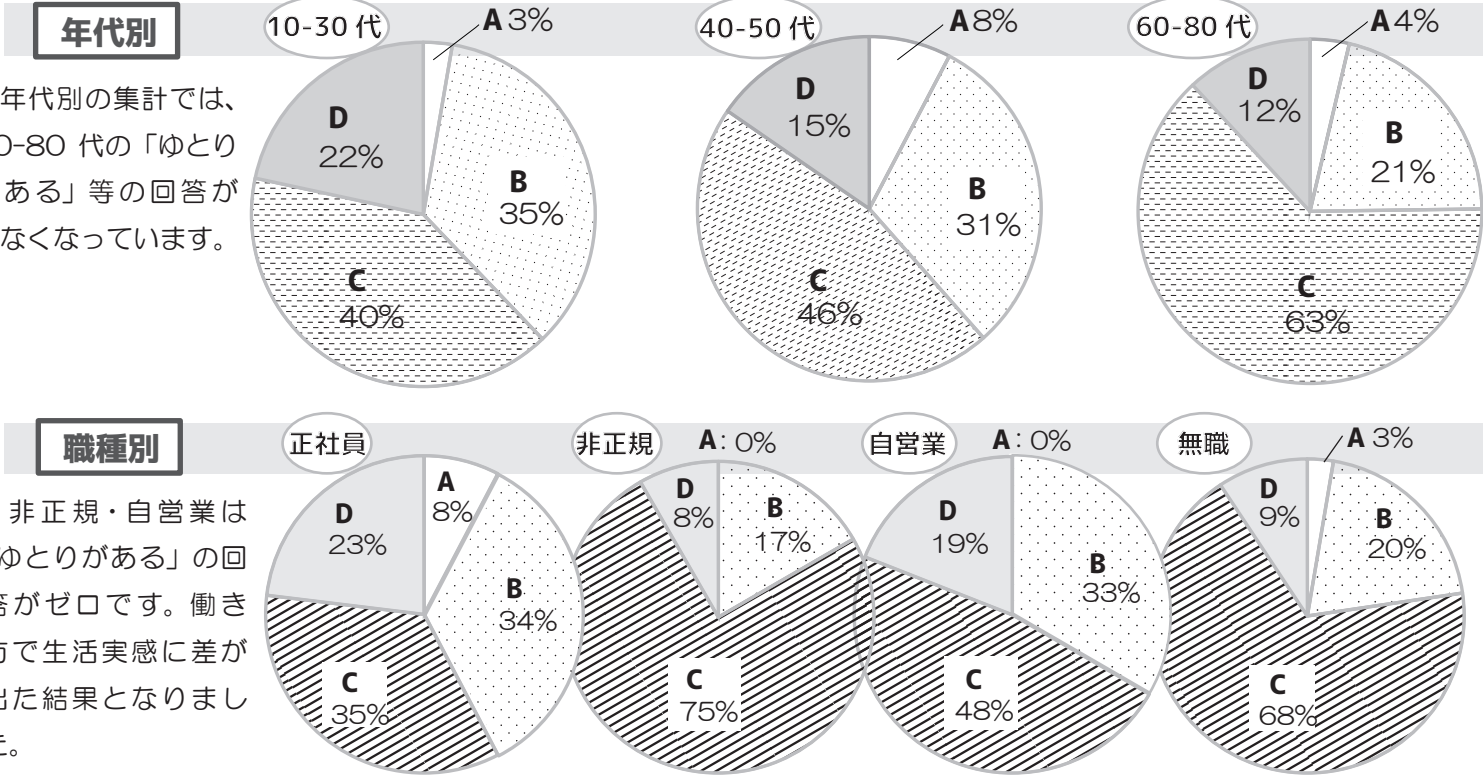
理由の筆頭にあげたのは「物価の上昇」「年金受給額の減少」で、日々の消費に関わるものでした。また、医療費や保険料も負担となっています。4月に年金が下がり、来年には国保の制度が変わるために保険料の引き上げが心配されています。

日本共産党は年金受給額の引下げや国保税額の引上げに反対し、暮らし応援の行政を求めています。多くの市民が保険料や税金に苦しめられているなかで、これまで大企業に対しては消費税の額と同じだけの法人税が減税されてきました。行き過ぎた大企業優遇の政治を転換し、税金の使い方を暮らし優先に切り替えることは今の政治の喫緊の課題です。



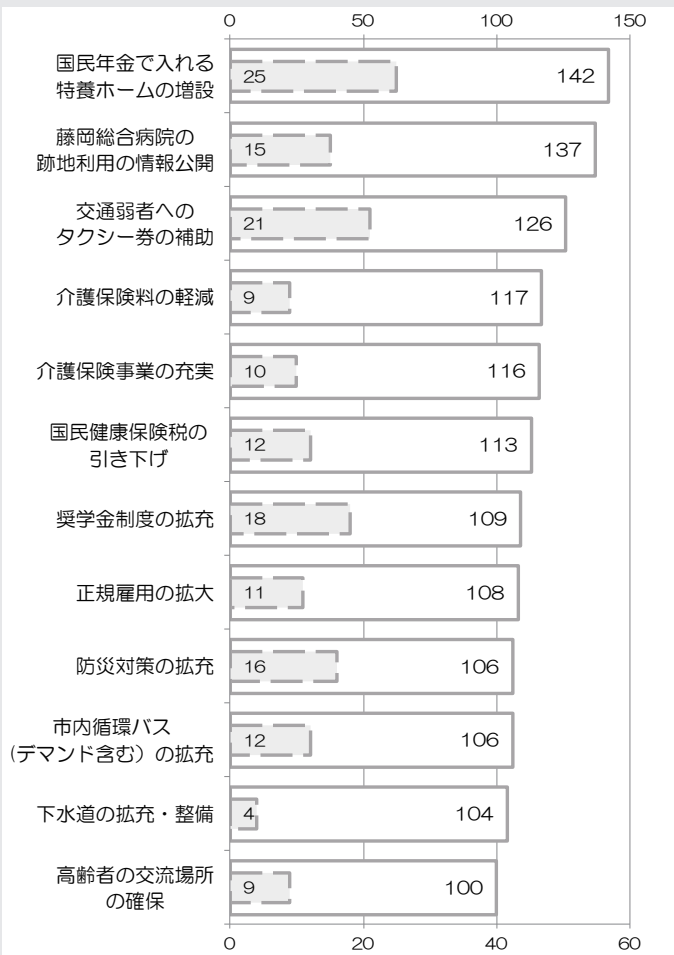
生活の状態について、年代別・職種別での集計です。グラフ内の ABCD はそれぞれ囲いの中をご覧ください。

A: ゆとりがある B: どちらかというゆとりがある
C: どちらかという苦しい D: 苦しい



Q. 藤岡市政に望むことは？

要望の特に多かったものを、「必要ない」との声とともに紹介します。



●自由意見 市政・国政関わらず頂いたご意見の一部です。

- 安倍政権が戦争できる国を作ろうとしていることに危機感を感じます。(30代：主婦)
- 母親として正規職員としての仕事に追われている。残業が多く帰宅が常に20時過ぎ。母親として子育てができていない罪悪感がある。時間に追われ苦しい。(30代：公務員)
- 自営業には税金など負担が多くすこしも楽にならない。減税など考えてもらいたい。(40代：自営業)
- 仕事が非常に多く、休日を含めて勤務以外の仕事をする事が多すぎる。(50代：公務員)
- 8%の消費税で負担感をずっと感じる毎日。消費税は福祉のためと云ったのに実際は医療も施設入所なども大変になっている。年をとって生きるのも大変で希望がないと思う。(60代：無職)
- 国民の意見をきかず審議も十分せず多数で押し切る現政権に大いなる疑問があります。国会議員の方々には巷の声をきくように生活困窮者の生活を見て頂きたい。(70代：無職)
- 自家用車なくてもいい社会、公共交通の充実を望みます。(60代：会社員)
- ①年金でも入れる介護施設が欲しい。特養を増やしてもらいたい。②高齢で車に乗れなくなったときの交通方法(を充実してほしい)。(70代：無職)

みなさん、ご協力ありがとうございました。

今回は貴重なご意見を多数お寄せ頂きましてありがとうございます。アンケートの結果を今後の活動に活かし、市民目線の市政の実現に向けて力を尽くします。引き続きご意見・ご要望をお寄せ下さい。今後ともご支援、よろしくお願いいたします。